

病理学：細胞の変化、疾患と病理変化

43-050 萎縮の機序で誤っている組合せはどれか。

1. 長期臥床による筋萎縮———廃用
2. 水頭症による大脳萎縮———持続的圧迫
3. 総腸骨動脈狭窄による筋萎縮———血流の減少
4. 末梢神経損傷による筋萎縮———神経支配の消失
5. 下垂体腫瘍による視神経萎縮———内分泌刺激の減少

43-051 褥瘡発生の要因でないのはどれか。

1. 低栄養
2. 高血圧
3. 浮腫
4. 筋萎縮
5. 末梢神経障害

45-A-075 アポトーシスで正しいのはどれか。

1. 細胞環境の悪化によって生じる。
2. 高濃度の酸素投与で予防できる。
3. マクロファージの浸潤を伴う。
4. DNA の断片化が生じる。
5. 核が膨張する。

45-P-075 生理的加齢によって脳の容積が縮小しているときの細胞の状態はどれか。

1. 壊死
2. 化生
3. 萎縮
4. 変性
5. 異形成

48-A-075 疾患と病理学的変化の組合せで正しいのはどれか。

1. 多発性硬化症———脱髄
2. Binswanger 病———感染
3. Huntington 病———炎症
4. Creutzfeldt-Jakob 病———出血
5. Charcot-Marie-Tooth 病———虚血

50-A-075 疾患と病理変化の組合せで誤っているのはどれか。

1. Parkinson 病———大脳白質の変性
2. 多発性硬化症———中枢神経の脱髄
3. Huntington 病———線条体の変性
4. Alzheimer 病———大脳皮質の変性
5. 筋萎縮性側索硬化症———脊髄前角細胞の脱落

52-P-075 疾患と病因・病理学的変化の組合せで正しいのはどれか。

1. Creutzfeldt Jakob 病———感染性疾患
2. Parkinson 病———脱髄疾患
3. 肝性脳症———神経変性疾患
4. 正常圧水頭症———血行障害
5. 多発性硬化症———腫瘍性疾患

52-P-097 疾患と病変の組合せで正しいのはどれか。

1. Lewy 小体型認知症———白質の病変
2. Alzheimer 型認知症———アミロイドの沈着
3. 血管性認知症———黒質の神経細胞脱落
4. 大脳皮質基底核変性症———運動ニューロン病変
5. 前頭側頭型認知症———大脳皮質の腫大神経細胞

52-P-095 リンパ浮腫について正しいのはどれか。

1. 腹水を伴う。
2. 利尿薬で治療する。
3. 蜂窩織炎になりやすい。
4. 肺塞栓症の原因の 1 つである。
5. 皮膚が線維化を起こすことは稀である。

54-P-075 疾患と病理学的変化の組合せで正しいのはどれか。

1. Parkinson 病———大脳白質の変性
2. 多発性硬化症———中枢神経の脱髄
3. Lewy 小体型認知症———大脳白質の虚血
4. 筋萎縮性側索硬化症———脊髄後索の変性
5. Guillain-Barré 症候群———脊髄前角の変性

病理学：炎症・免疫

43-053 遅延型アレルギーで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 抗原抗体反応によって起こる。
2. 抗原暴露後、発現までに 1 週間を要する。
3. 主に B リンパ球が関与する。
4. リンホカインで細胞集積が起こる。
5. ツベルクリン皮内反応を起こす。

44-036 免疫グロブリンについて正しいのはどれか。

1. 唾液中には含まれない。
2. T 細胞が抗原の刺激を受けて産生する。
3. IgG は血漿中に占める割合が最も少ない。
4. IgE はアレルギー反応に関与する。
5. IgM には胎盤透過性がある。

44-054 炎症の仲介物質の作用で正しい組合せはどれか。

1. ヒスタミン———血管透過性の亢進
2. セロトニン———発熱
3. ブラジキニン———マクロファージの活性化
4. ロイコトリエン———疼痛作用
5. プロスタグランジン———白血球の活性化

45-A-077 細菌感染による急性炎症反応で増加するのはどれか。2つ選べ。

1. 肉芽腫
2. 好中球
3. 網状赤血球
4. ヘモグロビン
5. プロスタグランジン

45-P-065 人の免疫機構で正しいのはどれか。

1. B細胞は細胞性免疫を担当する。
2. T細胞は活性化して形質細胞となる。
3. マクロファージはT細胞から分化する。
4. ナチュラルキラー細胞は体液性免疫を担当する。
5. ヘルパーT細胞はB細胞を活性化する。

46-P-065 IgEが関与しないのはどれか。

1. 気管支喘息
2. ツベルクリン反応
3. アトピー性皮膚炎
4. アレルギー性鼻炎
5. アナフィラキシーショック

47-A-076 急性炎症の初期にみられないのはどれか。

1. 発赤
2. 腫脹
3. 疼痛
4. 熱感
5. 拘縮

48-A-066 生体の防御作用としてB細胞リンパ球が産生するのはどれか。

1. アセチルコリン
2. 興奮性アミノ酸
3. 免疫グロブリン
4. インターフェロン- γ
5. インターロイキン-2

48-P-076 I型アレルギーはどれか。

1. 自己免疫性溶血性貧血
2. アナフィラキシー
3. ツベルクリン反応
4. ループス腎炎
5. 重症筋無力症

49-A-066 ヒトの免疫機構で正しいのはどれか。

1. B細胞は抗体を産生する。
2. 好中球はサイトカインを産生する。
3. キラーT細胞は他の免疫細胞を破壊する。
4. ヘルパーT細胞は免疫反応の抑制に働く。
5. 副腎皮質ホルモンは免疫機能を亢進させる。

49-P-077 移植後の拒絶反応について正しいのはどれか。

1. 自家移植で生じる。
2. T細胞が活性化される。
3. I型アレルギー反応である。
4. 抗体が移植片の細胞を損傷する。
5. 宿主と移植片のHLAが一致すると起こりやすい。

51-A-075 輸血時に移植片対宿主病が起こる可能性が最も高いのはどれか。

1. 血小板濃厚液
2. 新鮮血
3. 新鮮冷凍血漿
4. 赤血球濃厚液
5. 保存血

52-A-076 急性炎症と比較した場合の慢性炎症の特徴はどれか。

1. 血管内皮細胞の損傷
2. 血漿蛋白の滲出
3. 好中球の集積
4. サイトカインの分泌
5. 組織の線維化

52-P-078 正常な肉芽の特徴はどれか。

1. 感染しやすい。
2. 乾燥している。
3. 出血しやすい。
4. 白色である。
5. 分泌物が多い。

51-P-075 急性炎症の初期にみられるのはどれか。

1. 乾酪化
2. 線維化
3. 血管新生
4. 好中球遊走
5. 肉芽組織形成

53-A-064 抗体を産生するのはどれか。

1. 好酸球
2. 好中球
3. 好塩基球
4. 形質細胞
5. マクロファージ

54-P-076 アレルギーの分類と組織傷害の機序との組合せで正しいのはどれか。

1. I型アレルギー——即時型過敏症
2. II型アレルギー——細胞性免疫による組織傷害
3. II型アレルギー——免疫複合体病
4. III型アレルギー——抗体による機能亢進
5. IV型アレルギー——補体活性化による細胞傷害

54-P-078 創傷治癒を遅延させるのはどれか。

1. 亜鉛
2. アミノ酸
3. 酸素
4. ビタミンC
5. 副腎皮質ステロイド

病理学：感染

43-070 皮膚疾患で他の患者への感染に留意すべきものはどれか。

1. 皮脂欠乏性湿疹
2. 接触皮膚炎
3. 尋常性乾癬
4. 蕁麻疹
5. 疥癬

44-068 院内感染対策として適切でないのはどれか。

1. ワクチン接種
2. 二次感染の防止
3. 感染経路の把握
4. 抗菌薬の予防的投与
5. 院内ガイドラインの作成

46-A-085 ウイルス感染症に比べ細菌感染症に認められやすい特徴はどれか。

1. 高熱
2. 発疹
3. 蛋白尿
4. 好中球増多
5. 無痛性リンパ節腫脹

46-A-088 中枢神経の感染症と病原体との組合せで誤っているのはどれか。

1. エイズ脳症——ウイルス
2. Creutzfeldt-Jakob (クロイツフェルト・ヤコブ) 病——プリオン
3. 進行麻痺——スピロヘータ
4. 日本脳炎——ウイルス
5. 急性灰白髄炎 (ポリオ) ——細菌

47-P-066 細菌貪食能が最も高いのはどれか。

1. 単球
2. 好酸球
3. 好中球
4. リンパ球
5. 好塩基球

47-P-076 感染症について誤っているのはどれか。

1. 飲食物を介する感染を経口感染という。
2. 感染しても発症しないことを不顕性感染という。
3. 母親から新生児に経母乳性に感染することを水平感染という。
4. 2種類以上の病原体に同時に感染することを混合感染という。
5. 弱毒菌にもかかわらず容易に感染症を起こすことを日和見感染という。

47-P-092 感染症について誤っているのはどれか。

1. 帯状疱疹は水痘と同じウイルスが原因で発症する。
2. 疥癬はネズミによって媒介される。
3. ニューモシスチス・カリニ肺炎は日和見感染症である。
4. 黄色ブドウ球菌による食中毒は毒素性である。
5. レジオネラ症は空調設備が感染源となる。

48-A-077 ウイルスによる感染症はどれか。

1. トキソプラズマ症
2. ジフテリア
3. カンジダ症
4. トラコーマ
5. 帯状疱疹

49-A-078 飛沫感染するのはどれか。

1. MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)
2. インフルエンザウイルス
3. Clostridiumdifficile
4. B型肝炎ウイルス
5. 緑膿菌

49-P-093 溶連菌感染と関連があるのはどれか。

1. 猩紅熱
2. ガス壊疽
3. 帯状疱疹
4. 手足口病
5. 急性灰白髄炎

50-A-77 細菌感染によるのはどれか。

1. 梅毒
2. 痘瘡
3. 風疹
4. 猩紅熱
5. トラコーマ

50-A-086 病原体と主な感染経路の組合せで正しいのはどれか。

1. 結核——経口感染
2. MRSA——接触感染
3. 破傷風——媒介動物による感染
4. A型肝炎——血液による感染
5. 帯状疱疹——飛沫感染

50-P-082 院内感染対策として適切でないのはどれか。

1. 二次感染の防止
2. 感染経路の把握
3. ガウンテクニック
4. 抗菌薬の予防的投与
5. 院内ガイドラインの作成

50-P-086 HIV（ヒト免疫不全ウイルス）について誤っているのはどれか。

1. HIV 感染によりニューモシスチス・カリニ肺炎の発症率が上昇する。
2. AIDS（後天性免疫不全症候群）は HIV 感染によって生じる。
3. AIDS 発症の抑制に有効な治療薬がある。
4. HIV は喀痰から感染する危険が高い。
5. HIV は T リンパ球を死滅させる。

54-A-075 病原体と腫瘍発生との組合せで誤っているのはどれか。

1. A 型肝炎ウイルス———肝細胞癌
2. EpsteinBarr ウイルス——Burkitt リンパ腫
3. HTLV-I———成人 T 細胞白血病
4. ヒトパピローマウイルス——子宮頸癌
5. ヘリコバクター・ピロリ菌——胃癌

54-A-087 帯状疱疹で正しいのはどれか。

1. 発疹は左右対称にみられる。
2. 感染後数日で発症する。
3. Koplik 斑が出現する。
4. アロディニアを伴う。
5. 帯状絞扼感を伴う。

54-A-093 細菌の産生する毒素が症状の原因となるのはどれか。

1. 赤痢菌
2. サルモネラ
3. ボツリヌス菌
4. カンピロバクター
5. 腸管出血性大腸菌

54-P-090 神経系の感染症と病原体の組合せで正しいのはどれか。

1. HIV 脳症———スピロヘータ
2. 急性灰白髄炎———ウイルス
3. Creutzfeldt-Jakob 病——細菌
4. 進行麻痺———ウイルス
5. 日本脳炎———細菌

病理学：腫瘍

42-055 若年者に多い腫瘍はどれか。

1. 子宮筋腫
2. 脾癌
3. 悪性黒色腫
4. 骨肉腫
5. 大腸癌

44-055 病理学的な悪性度が最も高いのはどれか。

1. 髄膜腫
2. 血管芽腫
3. 神経鞘腫
4. 神経膠芽腫
5. 下垂体腺腫

45-A-078 良性腫瘍と比較した悪性腫瘍の特徴はどれか。2つ選べ。

1. 出血壊死が少ない。
2. 増殖の速度が遅い。
3. 細胞の分化度が低い。
4. 細胞の核分裂が少ない。
5. 周囲との境界が不明瞭である。

46-P-076 原発性脳腫瘍で最も予後が悪いのはどれか。

1. 膠芽腫
2. 上衣腫
3. 下垂体腺腫
4. 星状細胞腫
5. 乏突起膠腫

47-A-077 多発性骨髄腫に特徴的でないのはどれか。

1. 貧血
2. 腎障害
3. 易感染性
4. 病的骨折
5. 低カルシウム血症

48-A-076 重症筋無力症を合併することが多いのはどれか。

1. 肺癌
2. 乳癌
3. 中皮腫
4. 胸腺腫
5. 食道癌

49-A-076 良性腫瘍と比較した悪性腫瘍の特徴はどれか。

1. 異型性が低い。
2. 播種がみられる。
3. 細胞の分化度が高い。
4. 圧排性の発育形式をとる。
5. 周囲との境界が明瞭である。

49-A-077 小脳橋角部腫瘍で最も多いのはどれか。

1. 髄膜腫
2. 下垂体腺腫
3. 視神経膠腫
4. 聴神経腫瘍
5. 頭蓋咽頭腫

50-P-075 扁平上皮癌の特徴はどれか。

1. 粘液を産生する。
2. 神経組織に由来する。
3. 複数の胚葉成分を含む。
4. 細胞は相互に結合している。
5. 細胞間に間質成分がみられる。

50-A-094 大腸癌について誤っているのはどれか。

1. 食生活が発症に影響する。
2. 組織型は腺癌が最も多い。
3. 転移は肺転移が最も多い。
4. 我が国では胆管癌より有病率が高い。
5. 便潜血陽性が診断上重要な所見である。

51-A-076 良性腫瘍と比較した悪性腫瘍の特徴はどれか。

1. 出血壊死が少ない。
2. 細胞の分化度が高い。
3. クロマチンが増加する。
4. 膨脹性発育がみられる。
5. 細胞質に対して核の占める割合が小さい。

52-A-075 病理学的な悪性度が最も高いのはどれか。

1. 海綿状血管腫
2. 下垂体腺腫
3. 神経膠芽腫
4. 神経鞘腫
5. 髄膜腫

53-A-094 乳癌について正しいのはどれか。

1. 月経前に疼痛が増悪する。
2. 好発部位は乳房の外側上部である。
3. 好発年齢は20歳代である。
4. 5年生存率は40%前後である。
5. 我が国における発症率は欧米の3倍である。

53-P-075 正常細胞と比較したときの悪性腫瘍細胞の特徴はどれか。

1. 増殖が遅い。
2. 分化の程度は低い。
3. 染色体異常は少ない。
4. 核分裂の頻度は少ない。
5. 核/細胞質比は小さい。

53-P-091 胃癌について正しいのはどれか。

1. 噴門部に好発する。
2. 放射線療法が有効である。
3. 組織型でも最も多いのは腺癌である。
4. 我が国では発症率が増加している。
5. 我が国の悪性腫瘍による死因の第一位である。

54-P-088 骨肉腫で正しいのはどれか。

1. 肺転移が多い。
2. 運動時痛は少ない。
3. 壮年期に好発する。
4. 大腿骨近位に発生が多い。
5. 血中アルカリフォスファターゼが低下する。

54-P-092 脳腫瘍とその症状の組合せで正しいのはどれか。

1. 下垂体腺腫——両耳側半盲
2. 視神経膠腫——てんかん発作
3. 髄芽腫——下垂体機能不全
4. 聴神経腫——尿崩症
5. 頭蓋咽頭腫——難聴